

尾島町囲遺跡Ⅱ

福岡県筑後市大字尾島所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第97集

平成23年(2011)
筑後市教育委員会

おしままちがこい
尾島町囀遺跡第2次調査

平成23年(2011)
筑後市教育委員会

序

本報告書は、平成 22 年度に実施しました尾島町囲遺跡第 2 次調査の成果をまとめたものです。

筑後市の南部に位置する大字尾島は、現在の国道 209 号沿いに江戸時代の在郷町が形成されていた地域です。現在でも当時の地割りが残っており、市内でも藩政期の面影を残す歴史と伝統のある町です。

調査では、藩政期の庶民の暮らしを物語る食器や生活道具などが出土し、尾島の歴史解明の一端となる成果が挙げられました。

本報告書が地域における文化財保護の理解を深め、学術研究の一助となることを願っております。

今回の調査にあたって、多大なるご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 23 年 3 月

筑後市教育委員会
教育長 高巢 一規

例言

1. 本書は平成22年度に筑後市教育委員会が行った尾島町囲遺跡第2次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第1章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は上村英士、吉村由美子が作成し、遺物の実測・浄書は株式会社アーキジオに業務委託し、監理及び管理は筑後市教育委員会が行った。
4. 本書に使用した遺構の写真撮影は上村、吉村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は世界測地系を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2008に準拠している）。
SD - 溝 SK - 土壌 SP - ピット SX - 不明遺構
また、本文中の出土遺物について○×○の表記は両方の可能性が考えられるという意味である。
7. 本書の執筆は上村が行い、編集は上村と株式会社アーキジオが行った。

目次

I. 調査経過と組織	1
II. 位置と環境	2
III. 調査成果	3
IV. まとめ	17

写真図版

I. 調査経過と組織

尾島町開遺跡第2次調査は筑後市大字尾島字町圃に所在する。平成20年7月17日に国道209号改良事業に係る埋蔵文化財試掘調査について、開発原因者である国土交通省福岡国道事務所の依頼で福岡県教育委員会が試掘調査を行った。試掘の結果、当該地の一部で遺構が確認されたため、平成22年5月24日に国土交通省福岡国道事務所から筑後市教育委員会に本調査の依頼が提出された。協議の結果、平成22年8月17日に埋蔵文化財発掘調査受託契約を締結し、担当課である社会教育課社会教育係による現地での本調査を実施した。当該地の約525㎡について平成22年9月10日から現地での本調査を実施し、平成22年10月28日に終了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

1) 平成21年度

総括	教育長	城戸 一男
	協働推進部長	田中 僚一
	社会教育課長	山口 辰樹
	文化スポーツ担当係長	田中 純彦
	文化スポーツ係担当	小林 勇作
	(文化財担当職員)	上村 英士 (事前調査担当)
		吉村由美子 (")

2) 平成22年度

総括	教育長	高巢 一規
	協働推進部長	山口 辰樹
	社会教育課長	高井良清美
	文化スポーツ担当係長	馬場 信二
	文化スポーツ係担当	小林 勇作
	(文化財担当職員)	上村 英士 (調査・報告担当)
		吉村由美子 (調査担当)

3) 発掘調査・整理作業参加者

中村富男 下川義文 本村弘年 植田勝子 田島ヤス子 石橋香代美 三瀬美樹子 河添幸子 隈本千城 井上むつ子 今山三咲子 加藤礼子 角里子 馬場千鶴子 城崎マスヨ

調査及び整理作業に際しては次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。(順不同、敬称略)

斉部麻矢(福岡県教育庁文化財保護課) 正山 英隆(尾島行政区長)

Ⅱ. 位置と環境

・地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

・歴史的環境

筑後市内には旧街道（坊津街道）が南北を貫いており、「盛徳町」「宿町」「水田町」「西牟田町」「尾島町」の5ヶ所に在郷町が形成されている。在郷町は主に街道筋に形成され、農村の生産・消費物資を集束し、貨客の通行に役務を供給する機能を有していた。当遺跡が所在する「尾島町」は『元禄八年久留米領部中品々寄』（1695年）に「下妻郡尾島町長五町」と記され、『久留米藩旧家由緒書』『上妻郡新庄組大庄屋矢賀部氏旧記控』『米府年表』から成立は延宝二年（1674）とされている。

尾島村は元々、現在の尾島町から南の松永川と矢部川に挟まれた地域の小村であったが、度重なる洪水災害に見舞われるため、久留米藩の許可を得、延宝二年に市ノ塚松原（現在の大字尾島字町囲）に南北320間余、町屋敷奥行30間の開発を行い、120軒の町を形成した。町には四方に「町囲い」の暗渠及び東側には水害防止の土塁を造り、町の北東に天満神社、延宝3年には常用村から浄土真宗興満寺を町の南東に移している。久留米藩では尾島町に対して、地子免除とするなど、手厚い振興策を図って町が発展した。また、商業の振興も図り、安政年間には家数168軒に増加し、久留米藩南入口の町として繁栄した様子が記録として残っている。町家の間口は1戸あたり5.5間（約10m）を基準とし、町中央部には旧庄屋等の間口の広い屋敷地が存在した。現在は町の南北中心（薩摩街道）に国道209号が貫き、その両側に在郷町の面影を残す町並みが形成されている。

参考文献

『筑後市史』第1巻 1997 筑後市

『尾島町開遺跡』筑後市文化財調査報告書第40集 2002 筑後市教育委員会

『筑後水洗郷土史』1986 筑後市教育委員会 筑後郷土史研究会

Ⅲ. 調査成果

(1) はじめに

平成 22 年 9 月 10 日から重機と平行して作業員による手作業の調査に着手し、現場の都合上、6 カ所の調査区を設定して随時調査を行った。調査区が狭小なため、反転及びトレンチ調査となった調査区も存在する。調査は平成 22 年 10 月 18 日に埋め戻し及び現場作業撤収を終え現場引渡しを行った。

調査区現況は宅地跡であり、調査区は南北に延びる細長いものとなった。遺構の掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設(代表 橋爪徳光)に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。

調査は上村英士と吉村由美子が行った。

(2) 基本土層

層位は、約 20 cm の盛土下に約 30 cm から 40 cm の黄褐色土等の近現代整地層を確認し、整地層を除去すると約 40 cm の近世及び近代の遺物包含層を確認し、その下に暗黒色土の近世包含層を確認した。暗茶褐色土の地山に切り込む形で遺構を検出している。遺構は溝、ピット、土壇等を確認している。

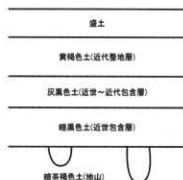


Fig.1 基本土層模式図



Fig.2 調査地点位置図 (1/25000)

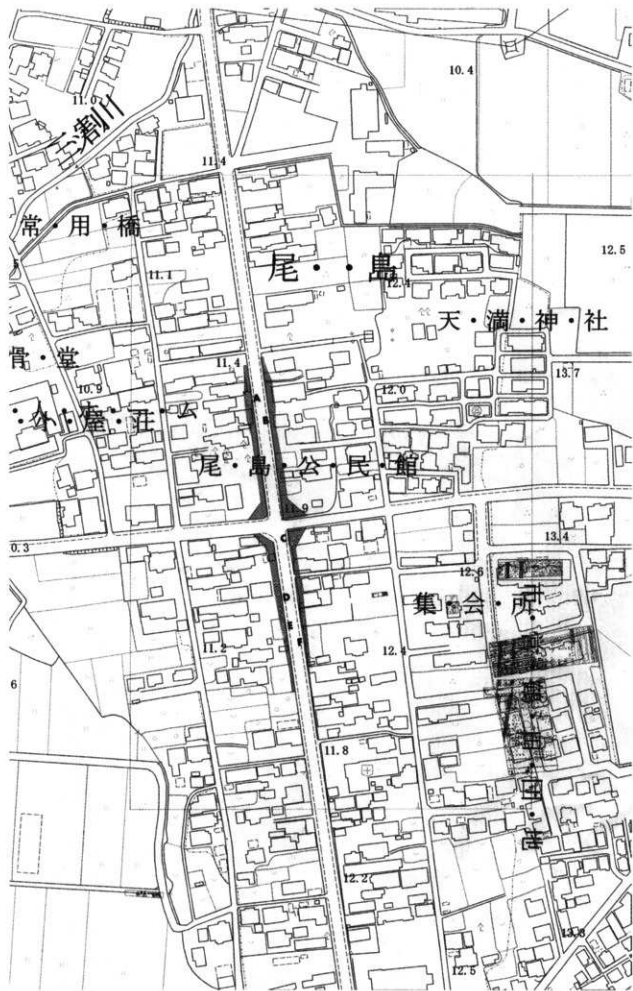


Fig.3 調査地点位置図 (1/2500)

(3) 検出遺構

調査区は細長い狭小な範囲でA区からF区までを設定している。以下に各区毎に報告する。

・A区

設定した調査区の中で最北に位置する。遺構は土壌、ピット、溝である。調査は上村が担当した。

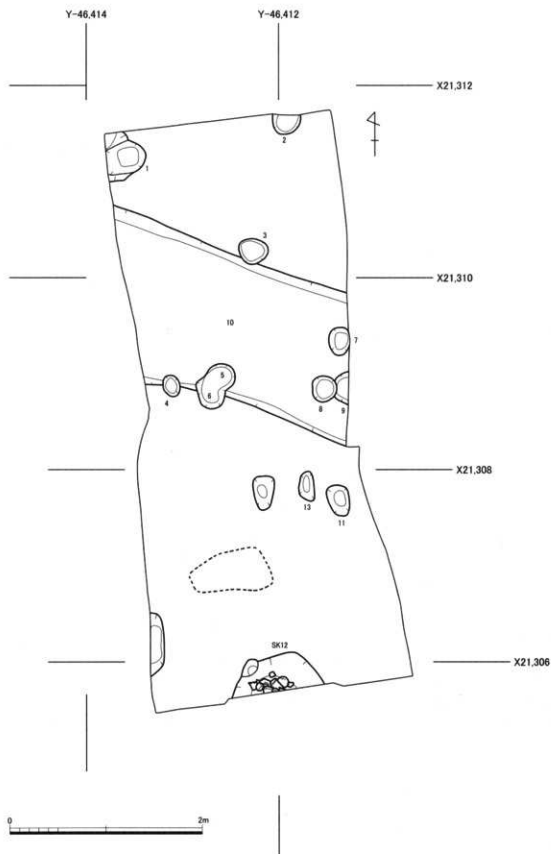


Fig.4 A区遺構全体図 (1/40)

土壌

SK12 (Fig.4, Pla.1)

調査区南端で検出した不定形な土壌で、調査区外へ延びると考えられる。検出最大幅約 0.95 m、深さ約 0.22 m を測る。埋土は淡灰黒色土である。遺物は土師器環 × 小皿、大環、土鍋、火鉢、染付碗、染付壺、鉢 × 皿、陶器碗、すり鉢、瓶、瓦質土器鉢が出土している。

・B区

A 調査区から国道を挟んで東側に位置する。遺構は土壌、ビット、溝である。調査は上村が担当した。

土壌

SK15 (Fig.5・6, Pla.2・3)

調査区北端で検出した土壌で、S-20 を切り込む。東側は調査区外へ延びると考えられ、埋土は暗黒色土である。遺物は染付碗、陶器甕、鉢、瓦質土器火鉢が出土している。

SK25 (Fig.6, Pla.2)

調査区中央で検出した不定形な土壌で、調査区外へ延びると考えられる。検出最大幅約 2.9 m、深さ約 0.21 m を測る。墳底はほぼフラットで、埋土は淡黒茶色土である。遺物は土師器甕、陶器碗、石製品を出土している。

ビット

SP29 (Fig.6, Pla.2)

SK25 南隣で検出したビットである。直径約 0.24 m、深さ約 0.40 m を測る。遺物は土師質の平瓦(近世)を出土している。

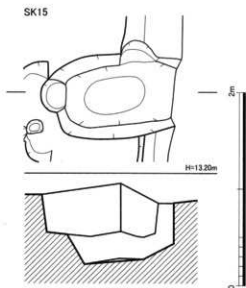


Fig.5 SK15 遺構実測図 (1/40)

・C区

B 調査区から南の尾島中町交差点に位置する。遺構はビット、土壌である。調査は吉村が担当した。

ビット

SP79 (Fig.7, Pla.3・4)

調査区北側で検出した円形のビットである。直径約 0.32 m、深さ約 0.19 m を測る。遺物は染付碗、染付仏飯具を出土している。

SP83 (Fig.7, Pla.3・4)

調査区北東で検出した楕円形のビットである。長軸約 0.62 m、短軸約 0.5 m、深さ約 0.37 m を測る。遺物は土師器片、陶器片を出土している。

SP86 (Fig.7, Pla.3・4)

調査区東端で検出したビットで、調査区外へ延びると考えられる。最大径約 0.30 m、深さ約 0.27 m を測る。遺物は土師器片、染付片を出土している。

SP88 (Fig.7, Pla.3・4)

調査区南で検出した楕円形のビットである。長軸約 0.44 m、短軸約 0.38 m、深さ約 0.21 m を測る。遺物は土師器片、染付碗、陶器甕、灯明皿、銭を出土している。

・D区

尾島中町交差点の国道南西側に位置する。遺構はビット、溝、土壌である。調査は上村が担当した。

土壌

SK44 (Fig.9・10, Pla.5)

調査区南端で検出した方形であろう土壌で、調査区外へ延びると考えられる。検出最大幅約 1.1 m、

幅約 0.56 m、深さ約 0.63 m を測る。埋土は暗黒色土で締りが無い。遺物は土師器土鍋、煙管が出土している。

SK47 (Fig.8, Pla.5・6)

調査区中央で検出した土師質の甕を埋めた土壌である。近現代の所産と考えられ、底部のみ欠損している状況である。遺物は土師器甕、土鍋、染付碗、陶器甕、灯明皿、銭を出土している。

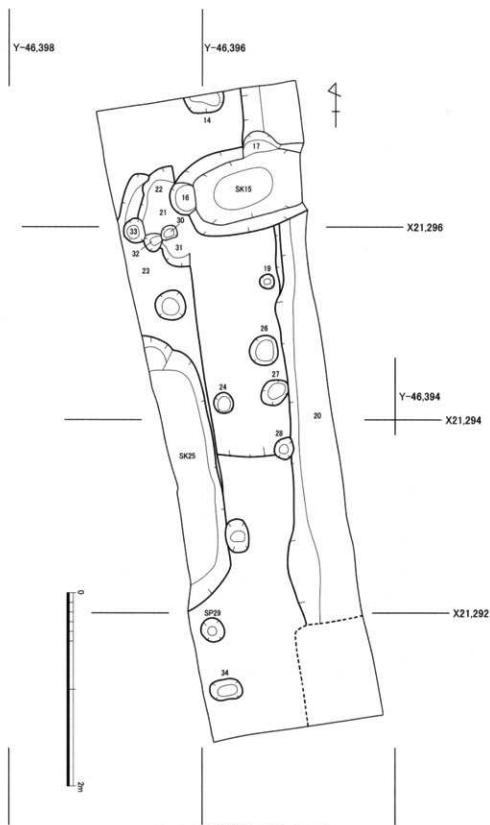


Fig.6 B区遺構全体図 (1/40)

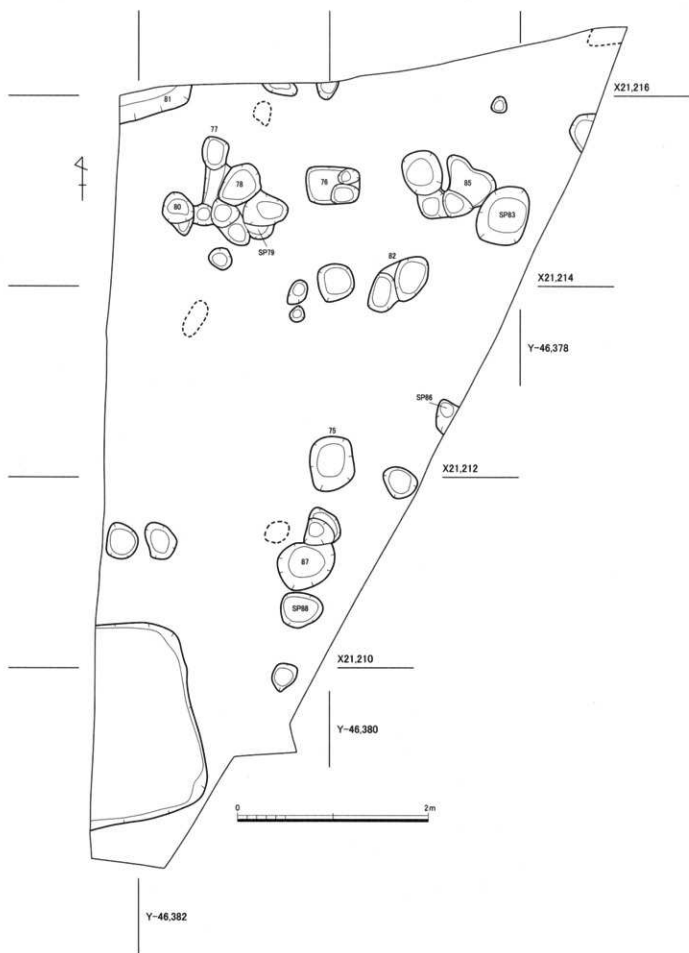


Fig.7 C区遺構全体図 (1/40)

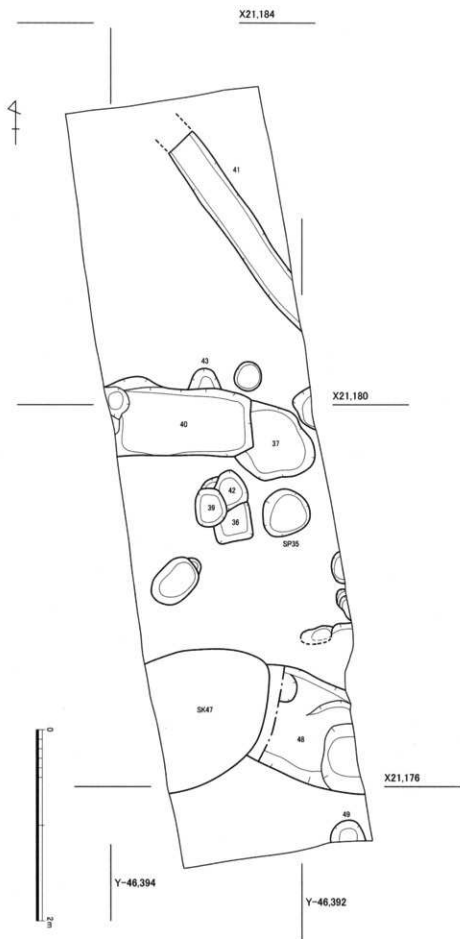


Fig.8 D区-1 遺構全体図 (1/40)

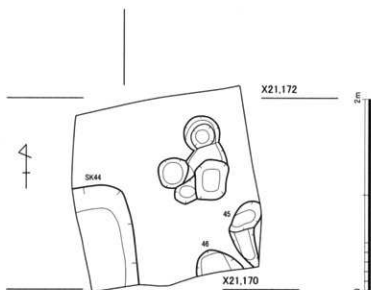


Fig.9 D区-2遺構全体図(1/40)

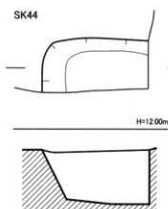


Fig.10 SK44実測図(1/40)

出土している。

・F区

E区東側の国道を挟んだ東側に位置する。遺構は土壌、ピットである。調査は上村が担当した。

土壌

SK67 (Fig.13, Pla.7・8)

調査区中央で検出した不定形な土壌である。長軸約1.0m、短軸約0.85m、深さ約0.45mを測る。切り合い関係はS-61・70を切り込んでいる。埋土は暗灰黒色土である。遺物は土師器甕、土鍋、青磁碗、染付皿、陶器壺、甕、瓶、軒丸瓦を出土している。

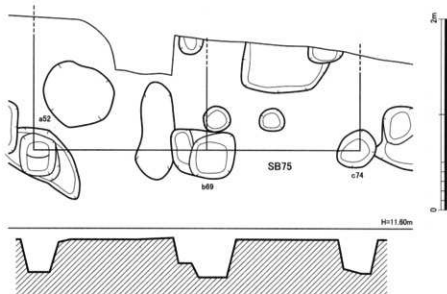


Fig.11 SB75実測図(1/40)

ピット

SP35 (Fig.8, Pla.45)

調査区中央で検出した円形のピットである。直径約0.5m、深さ約0.16mを測る。遺物は土師器環、陶器皿、壺、砂岩製砥石、鉄滓、釘を出土している。

・E区

尾島中町交差点の国道南西側のD区の南側に位置する。遺構はピット、溝、土壌である。調査は吉村が担当した。

ピット

SP59 (Fig.12, Pla.6・7)

E区-2中央で検出した円形のピットである。直径約0.45m、深さ約0.21mを測る。遺物は白磁皿、陶器大甕、すり鉢、瓦を

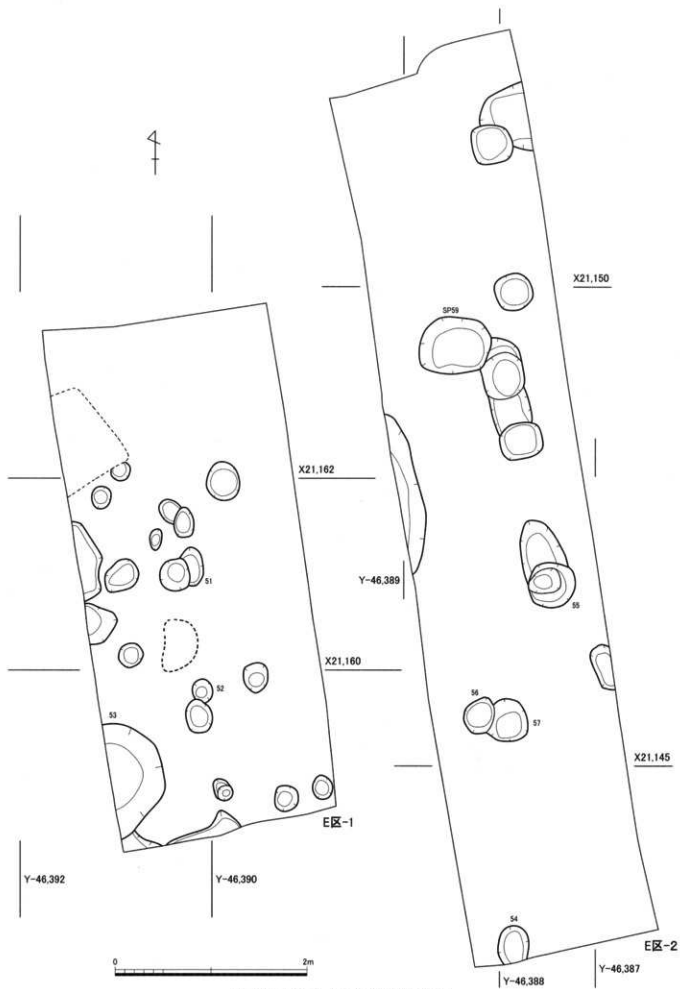


Fig.12 E区-1・2遺構全体図(1/40)

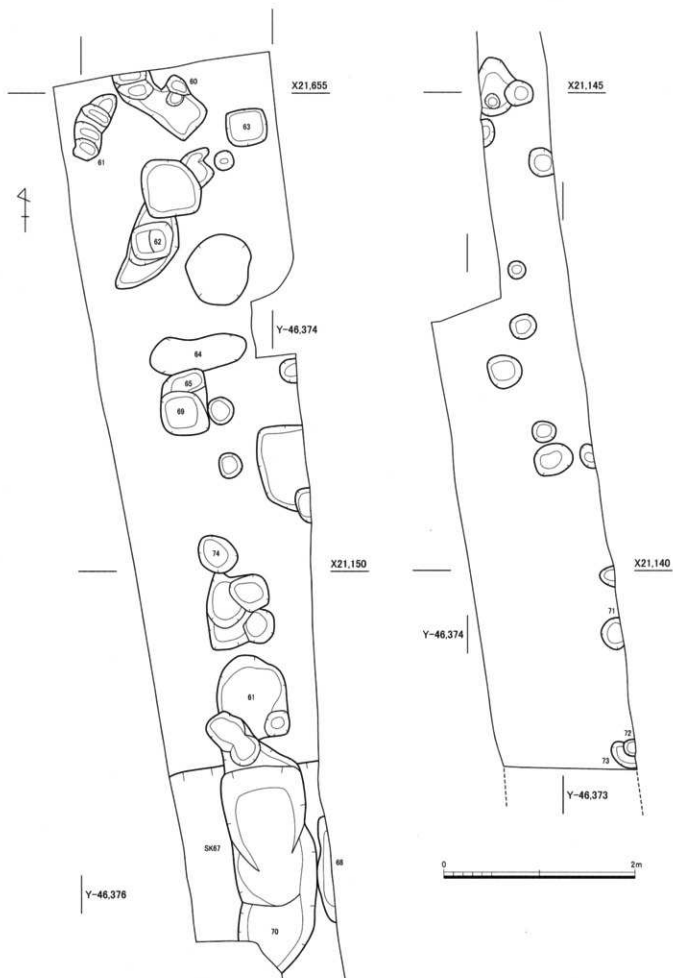


Fig.13 F区遺構全体図 (1/40)

掘立柱建物

SB75 (Fig.11, Pla.7・8)

調査区中央で検出した掘立柱建物と考えられる。方位はほぼ現在の国道及び地割りに沿って柱穴が並ぶ。柱間々はa (S-62) b (S-69) 間が1.8 m、b (S-69) c (S-74) 間が1.6 mを測る。柱穴深さは約0.35～0.40 mである。遺物はbから土師器甕、銅、染付片、陶器片を出土している。またaからはガラス片も出土しており、比較的新しい柱穴の可能性がある。

(3) 出土遺物

掲載した出土遺物については下記出土遺物一覧表参照のこと。

遺物番号	発出層号	種類	形状	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	底径 (cm)	底径 (cm)	場所	土質	焼成	色調(断面)		胎土	備考
												外周・口縁	内周・凸部		
SB11	1	陶器	甕	10.2	5.05	4.7			2/3	細かい	良好	褐色色	暗褐色～暗黒褐色	灰色	
SB12	2	陶器	甕	11.0	(4.45)				口縁～体部1/4	細粒	良好	淡黄白色	淡黄白色	淡黄白色	
SB13	3	陶器	甕	11.8	4.8	7.45			一部欠	細かい	良好	灰白色		暗褐色～黒褐色	
SB17	4	陶器	甕片		(4.25)	6.2			体部～底部1/3	細かい	良好	灰白色	灰白色～淡黄色	暗褐色色	
SB17	6	陶器	甕		(2.85)	7.3			1/2	細かい	良好	暗赤褐色	暗赤褐色	黒褐色	
SB12	8	陶器	甕		(18.0)	7.0			1/2	細かい	良好		灰白色	灰白色	
SB17	7	陶器	甕		(5.5)	16.5			小片	細かい	良好	暗黄褐色～暗褐色	暗赤褐色～灰白色	暗褐色	
SB17	8	土師器	土甕		22.4	3.75	17.3		口縁～体部1/5	やや粗	不良	灰色	灰色		
SB12	9	土師器	甕		35.0	7.5	25.3		1/5	やや粗	良好	淡黄色	暗黄褐色		胎土跡
SB12	10	土師器	土甕		34.0	7.40			小片	細かい	良好	褐色	暗褐色		
SB12	11	陶器	甕		(8.8)	11.4			1/2	細かい	良好	灰褐色	灰褐色	灰褐色	すり鉢
SB19	12	瓦	平瓦	(10.8)	(10.7)	1.45			小片	細粒	良好	暗い黄褐色	暗い黄褐色		土師器
SB19	13	石製品	砥石	10.15	3.15	1.25			完整						重量：75g
SB19	14	石製品	砥	(9.45)	1.5	1.45			完整						重量：25g
SB17	15	磁器	甕			4.4			底厚1/3	塊状	良好	淡い水色	淡い水色	淡緑灰色	染付
SB17	16	陶器	甕(口縁)	9.95	3.15	4.2			2/3	塊状	良好	赤褐色	暗赤灰色	暗赤灰色	染付片
SB16	17	陶器	甕						完整						黄赤褐色
SB17	18	陶器	甕						完整						
SB17	19	陶器	甕		28.2	(10.1)			口縁～体部3/5	塊状	良好	赤褐色	灰黄色	暗赤褐色	
SB14	20	土師器	土甕		(6.5)	(6.4)	1.1		片	細かい	良好	褐色	暗褐色～黄褐色		
SB14	21	陶器	甕		(4.45)	1.0	0.95		一部欠						材質：銅
SB19	22	土師器	土甕		45.5	(6.5)			片	細かい	良好	褐色色	灰色		
SB17	23	土師器	土甕		48.0	(7.8)			1/5	細粒	良好	黄褐色	褐色		
SB17	24	土製品	刺丸瓦		(6.9)				小片	細粒	やや粗	褐色	褐色		高さ：0.020m
SB19	25	土師器	甕		6.5	5.0	1.6		片	細粒	良好	褐色	暗赤褐色		口径約7
SB16	26	土師器	平甕		7.85	10.2	1.35		片	細粒	良好	褐色	褐色		
SB19	27	石製品	平砥	(4.7)	5.5	0.7			一部欠			赤灰色	赤灰色		重量：28g
SB19	28	陶器	甕		12.0	2.9	4.6		片	細粒	良好	灰白色	灰白色	灰白色	
SB19	29	陶器	土甕片		6.7	5.95	3.95		一部欠	細粒	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		染付
SB19	30	陶器	甕		(3.0)	3.8			体部～底厚1/3	細粒	良好	淡緑色	淡緑色		染付
06098	31	土製品	平瓦	(14.8)	(15.7)	1.4			瓦2/5・平瓦2/5	細粒	やや粗	褐色	褐色		土師器
10089	32	土師器	平甕	(19.4)	(21.4)	1.45			片	細粒	良好	暗い黄褐色	暗い黄褐色		

Tab.1 遺物実測図一覧表

SK12

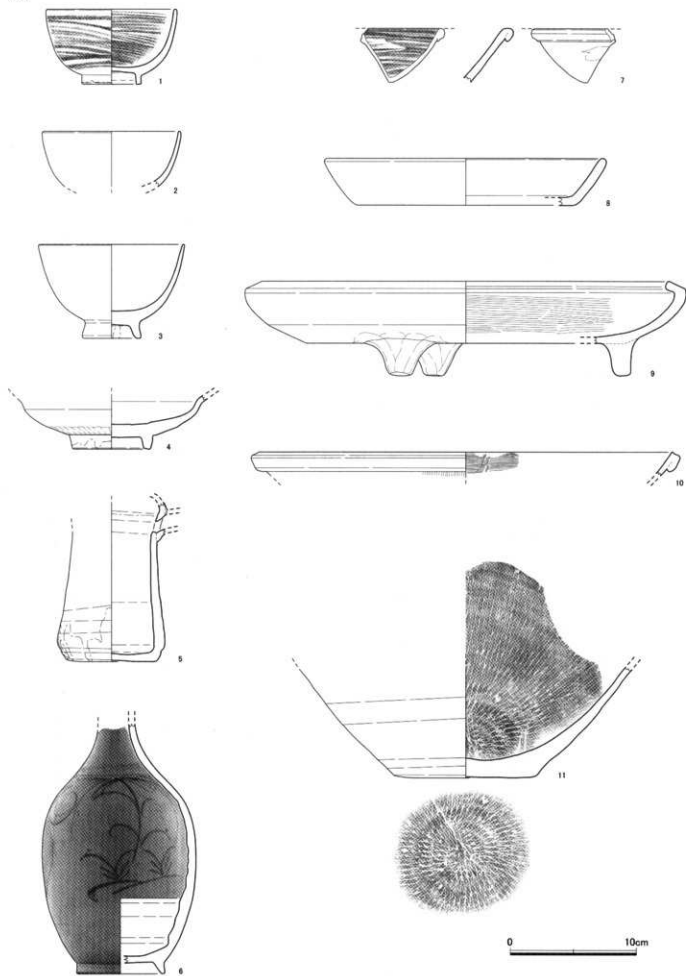


Fig.14 出土遺物実測図1 (1/3)

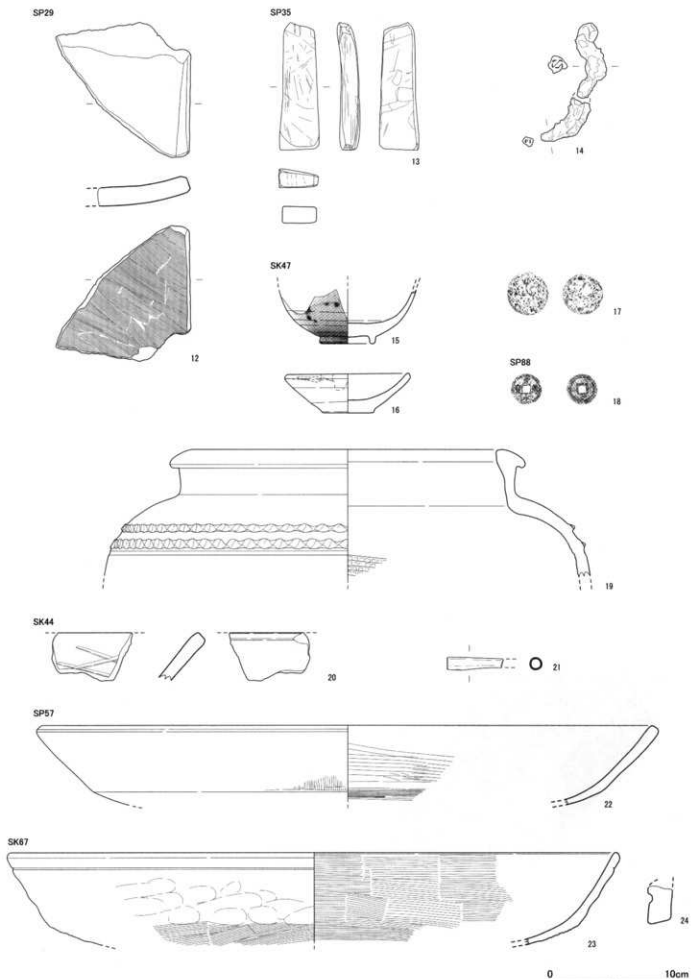


Fig.15 出土遺物実測図 2 (1/3)

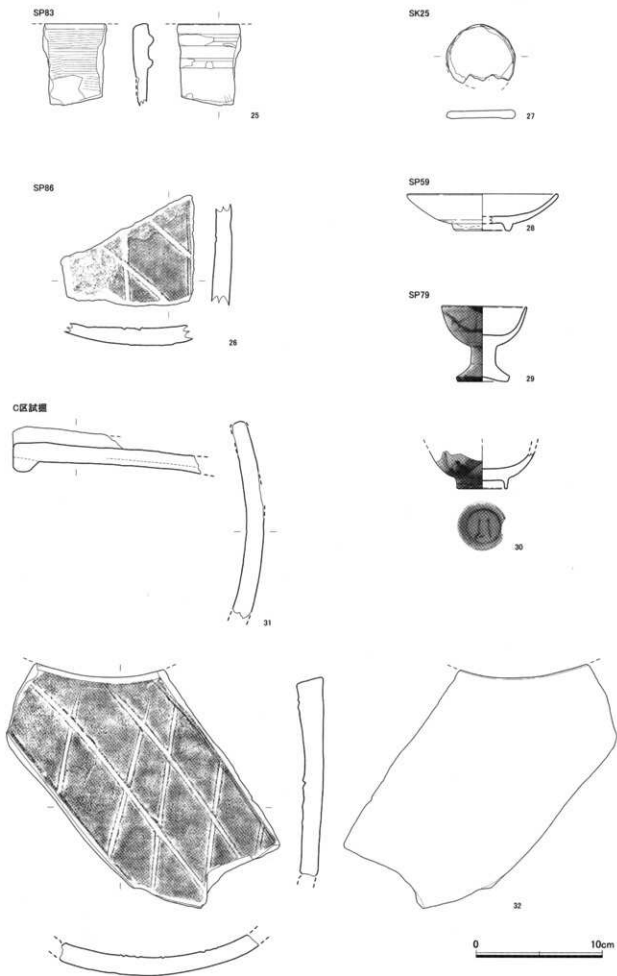


Fig.16 出土遺物実測図3 (1/3)

IV. まとめ

今次調査から検出された遺構・遺物について述べる。

尾島地区では平成13年に尾島町囲遺跡第1次調査(『尾島町囲遺跡』2002 筑後市教育委員会)が行われ、在郷町である「尾島町」の一部が確認されている。第1次調査は狭小な調査区ながら、中世から近世にかけての溝を数条確認しており、町区画に関わるものとして報告され、遺物も土師器・陶磁器など近世所産のものである。第1次調査から至近距離にある今次調査で確認された遺構・遺物も近似した傾向を示す結果となった。

歴史的環境については「Ⅱ.位置と環境」で触れたが、在郷町として延宝2年(1674年)に矢部川の洪水災害から村を守るために新村として開発された歴史をもつ。現在でも洪水除けの土塁が一部に残されており、町家の間口も合併統合されながらも残り続けている。当市内の西牟田町、盛徳町、羽犬塚町も在郷町及び宿町として藩政時代の町割りが残る地域である。尾島町については、久留米藩南端の玄関口としての機能や洪水被害を避けるため新村を興し、藩の庇護による経済的な振興が図られた町であった。

今次調査で検出された遺構は溝、土壇、ピットが挙げられる。これらの開削及び埋没時期については一概には言えないが、包含層(近世末以降)から穿つものと、包含層除去後確認するものとに分けられる。第1次調査のような中世の遺構・遺物は確認しておらず、今次調査で確認された遺構群は尾島町形成後のものと考えられる。

溝や土壇については、概ね町家と並行するように(街道と直交する)配置されており、その機能がどのようなものであったかが問題となるが、狭小な調査区設定のため性格を確認するまでには至らなかった。調査中に近所の方から聞いた話では旧街道は現在の国道209号の中心線より西側の現況道路及び歩道部分に存在したと話す。このことを勘案して、今次調査F区でピットが並ぶ現象を掘立柱建物として報告している。

遺物については、特異な遺物として土師質の瓦と、土師質の内面に格子状の線刻を施す円筒形の不明製品が挙げられる。土師質瓦については、ここ数年の研究により、近世に成立した「水田焼」の土師質瓦として認識されるものである。但し、「水田焼」土師質瓦は、土管製作の過程で作られた可能性があることしか解っておらず、出土地域も含め今後の調査が必要であるとする。土師質の内面に格子状の線刻を施す不明製品は、市内から数点の出土が確認されている。この遺物についても、製作過程では土師質瓦と同様に桶巻きによる円筒状のものから切り離され面取り、若しくは板状の1枚ものから成型したと想定され、土師質の焼物として「水田焼」との関連性が考えられる遺物である。また、土器製竈の焚口部分のように面に対して半円状に面取りしていることから、土師器風炉の可能性も考えられる。

尾島地区で5例目の本調査であったが、第1次調査と同様に狭小で部分的な調査となった。矢部川周辺での発掘調査を行うと「洪水による氾濫原」の痕跡を確認することが多い。今次調査では洪水による災害を避けるために形成された尾島町の一部で調査を行ったが、現存する洪水除けの土塁や、市南部にしては比較的標高の高い土地を選び新村を開発するなど、先人達の知恵と町づくりの一端が見られた。出土した遺構・遺物も江戸期を中心とした生活雑器など、庶民の暮らしを知る上で貴重な資料を得た。

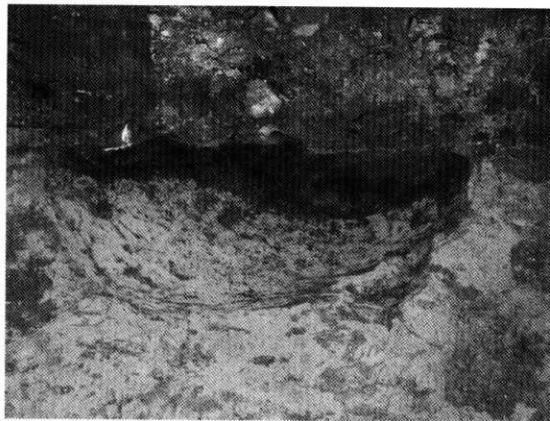
今後は、これらの資料を使い、まちづくりの素材として地域に還元することが必要であり、また地域の歴史を学ぶ研究素材として活用しなければならない。

写真図版

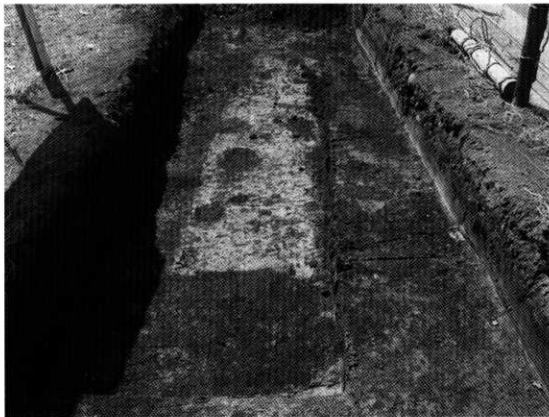
Pla.1



A区南側全景（北から）



SK12完掘状況（北から）



B区検出状況(北から)



B区完掘状況(北から)



SK15 完掘状況 (東から)



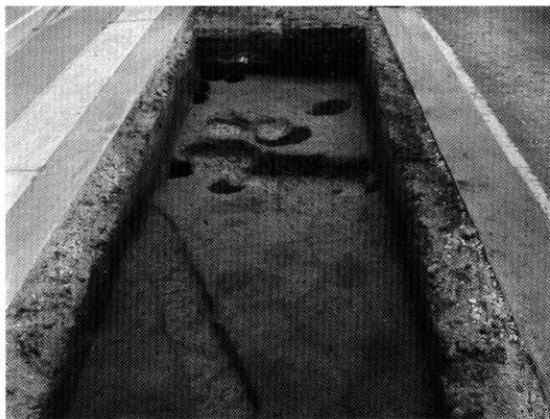
C区検出状況 (北東から)



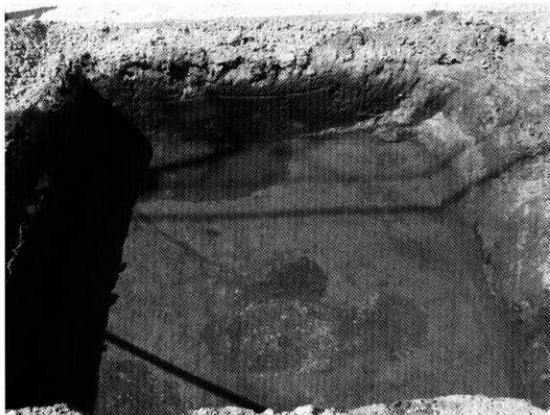
C区完掘状況 (北東から)



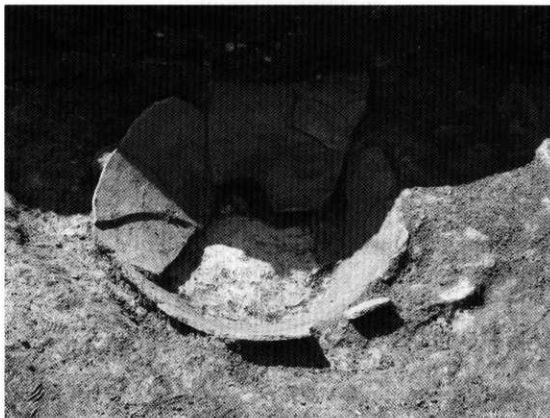
D区完掘状況 (南から)



D区完掘状況(北から)



D区検出状況(東から)



SK47 検出状況 (東から)



E区完掘状況 (南から)

Pla.7



E区完掘状況(北から)

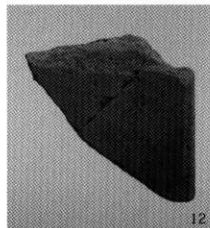
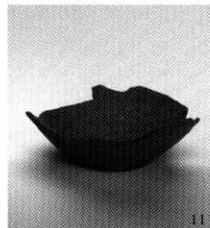
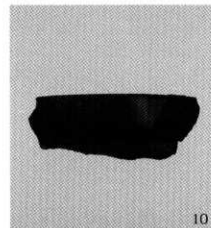
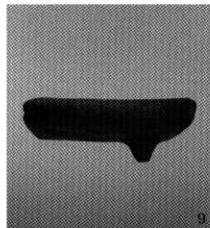
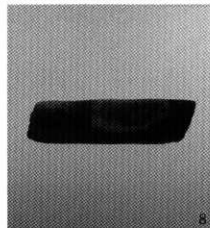
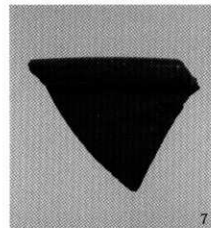
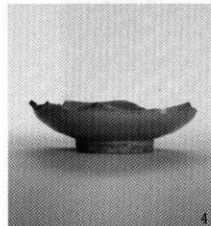
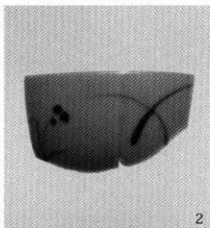
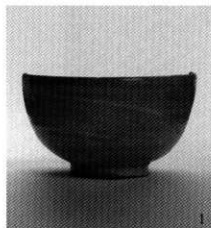


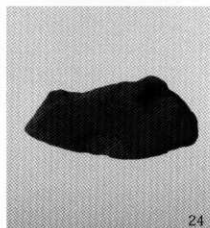
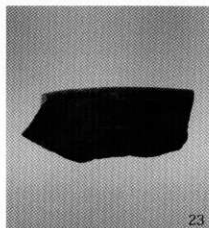
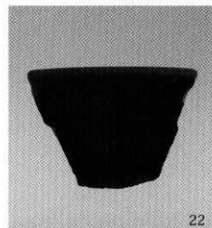
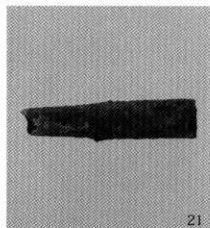
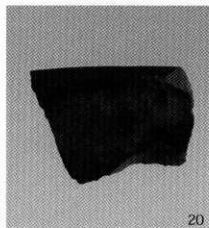
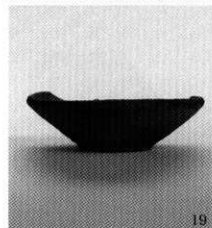
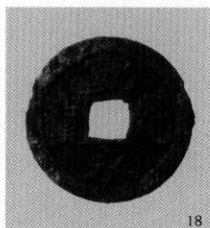
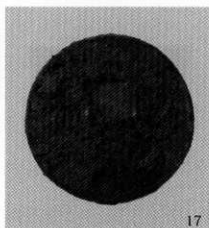
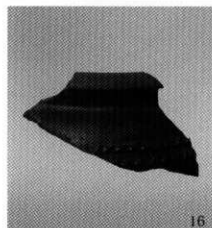
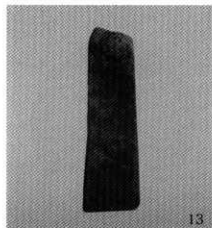
S.T

E区完掘状況(南から)

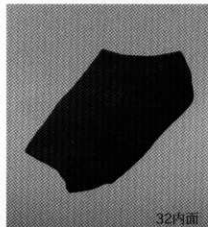
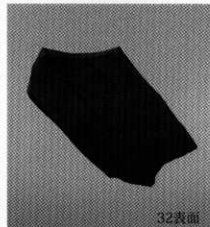
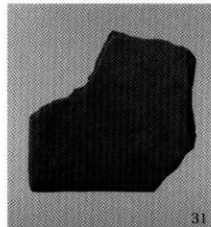
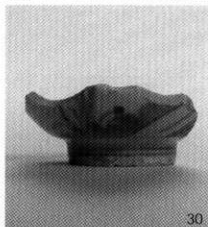
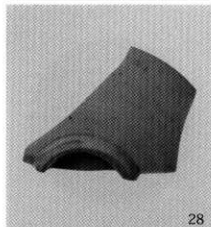
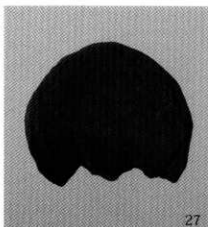
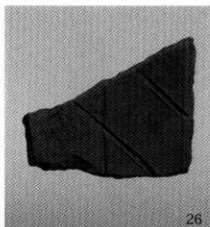
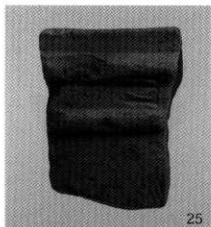


F区完掘状況(北から)





Pla.11



筑後市文化財調査報告書 第97集

尾島町圃遺跡Ⅱ

平成23年3月25日

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井 898

TEL 0942-53-4111

印刷 株式会社 三光

福岡県福岡市博多区山王一丁目14-4

TEL 092-475-6271